

上場会社名 株式会社モブキャストホールディングス 上場取引所
 コード番号 3664 URL <https://mobcast.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藪 考樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 佐武 利治 (TEL) 03-5414-6830
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,200	16.8	△504	—	△597	—	△301	—
2019年12月期第3四半期	4,451	△18.1	△908	—	△1,005	—	△964	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △301百万円(—%) 2019年12月期第3四半期 △970百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△11.57	—
2019年12月期第3四半期	△48.71	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	4,621	1,143	24.58
2019年12月期	6,941	685	9.78

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 1,135百万円 2019年12月期 678百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	6,550	△2.0	△600	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 社(社名) 、除外 1社(社名) 株式会社トムス

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期3Q	29,060,308株	2019年12月期	24,008,308株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	一株	2019年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期3Q	26,018,558株	2019年12月期3Q	19,808,454株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算説明資料は、TDnetで同日開示する予定になります。また、当社は、2020年11月12日(木)に機関投資家・証券アナリスト向け説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	12
(重要な後発事象)	12
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間において当社は、前連結会計年度に引き続き、各社ごとにおける戦略に沿って、売上、利益の拡大を図るとともに、エンターテインメント分野における新たな事業領域への拡大を目指し新規の投資案件を継続して探しております。なお、2020年6月26日に当社が保有するトムスの株式の80%を譲渡いたしました。

モバイルゲーム事業

モバイルゲーム事業につきましては、2019年11月に当社の子会社である株式会社モブキャストゲームス(以下、「モブキャストゲームス」)が株式会社ゲームゲート(以下、「ゲームゲート」)の全株式を取得し、完全子会社(当社の孫会社)といたしました。その後、2020年1月1日を効力発生日としてモブキャストゲームスを存続会社としたゲームゲートを吸収合併し、1つの会社として旧モブキャストゲームス、旧ゲームゲートの国内外のネットワーク等を生かし、ゲームゲートの得意分野であるアニメ等のニッチIP分野でのゲームを中心としたデジタルコンテンツのプロデュースを戦略の軸として進めております。その一環として旧モブキャストゲームスで配信していたスポーツタイトルを2020年3月31日付で株式会社オルトプラスへ譲渡いたしました。

当第3四半期連結累計期間においては、「転生したらスライムだった件～魔国連邦創世記(ロードオブテンペスト)～」においては既存のプラットフォームに加えDMM GAMES並びにAmazonへと配信媒体を広げ、さらに「モバプロ」においてはプロ野球公式戦の終盤に向けた盛り上がりをつかえた施策により売上の増加に繋がりました。またグローバル市場に向けての展開については、2020年9月16日にプロデュースタイトル「sin七つの大罪」をシンガポール及びマレーシアへ配信開始しました。その結果、売上高は2,226,449千円(前年同四半期の売上高は2,648,413千円)となりました。また、コスト構造改革を行い販売管理費の削減は確実に進んでいるものの「エヴァンゲリオンバトルフィールド」の出資金を償却計上したことによる負担が大きく、営業損失は37,061千円(前年同四半期は営業損失320,438千円)となりました。

モータースポーツ事業

モータースポーツ事業につきましては、広告収益および事業収益を目的とした年間スポンサー契約の獲得、およびレース参戦車両の技術開発により自動車用品への技術転用や商品開発に必要なデータやノウハウの蓄積のため、国内の主要な自動車レースカテゴリーに参戦しております。

売上につきましては、レース事業は新型コロナウイルス感染症の影響によりレース開催が下半期以降の開催になるものの、スポンサー売上は計画通りに推移しております。また、自動車用品事業については、トムスブランド製品の品質をアピールし、商品開発車両種の増加と海外販売及びネット販売等による販路拡大の基盤づくりを行う一方で、第2四半期連結累計期間においては、医療従事者への支援を目的としたチャリティーガレージセール及び除菌コーティングスプレーの販売といった、コロナ下の市場動向をふまえた活動も行っていました。

なお、モータースポーツ事業につきましては、2020年6月26日にトムスの株式の80%を譲渡したことから同社を2020年12月期第2四半期連結会計期間末より連結の範囲から除外するとともに持分法適用の範囲に含めております。そのため、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,083,764千円、営業損失は42,697千円となり、第2四半期連結累計期間より変更ありません。また、当第3四半期連結累計期間の連結損益計算書からは除外しているため、前年同四半期との比較につきましては記載を割愛しております。

キッチン雑貨事業

キッチン雑貨事業を営む株式会社ゆとりの空間は、雑誌やテレビなどメディアでなじみ深い料理家の栗原はるみ氏が暮らしを楽しむアイデアやライフスタイルを提案する生活雑貨ショップ「share with Kurihara harumi」とレストラン&カフェ「ゆとりの空間」をプロデュースし、オリジナルの食器やキッチン雑貨、調味料、インテリア小物、エプロン、ウェアなどを全国の百貨店、アウトレットなどで事業展開しています。また同じく料理家である栗原心平氏が出演するYou Tube公式チャンネル「ごちそうさまチャンネル」を開設し、動画内で使用したキッチンアイテムやこだわりの商品、厳選した産地直送の食品を販売する「ごちそうさまチャンネル Officialオンラインショップ」を展開し、新たな顧客獲得を進めております。

当第3四半期連結累計期間において、全国の百貨店などに outlet している小売店舗の売上については、7月、8月は新型コロナウイルス感染症拡大の第2波が訪れ再び売上低迷が懸念されましたが、夏のセール等の催し物により緊急

事態宣言前のレベルに近い水準まで持ち直しつつあります。また、モブキャストグループ参画後より強化しているEコマース売上は、公式サイト限定商品として栗原はるみレシピによるスイーツを販売、さらにSNSへの投稿を強化したことにより売上が伸びました。加えて、レストラン事業におけるテイクアウトの導入、SNSにて来客キャンペーン等の施策をした結果、売上高は1,881,857千円、営業損失は15,573千円となりました。

なお、キッチン雑貨事業につきましては、2019年12月期第4四半期連結会計期間から連結対象としたため、前年同四半期との比較につきましては記載を割愛しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、前年同四半期に比べ749,002千円増加し、5,200,555千円（前年同四半期は売上高4,451,553千円）となりました。また、営業損失は前年同四半期に比べ403,790千円改善し、504,786千円（前年同四半期は営業損失908,576千円）となりました。また、営業外費用として「支払利息」46,472千円等を計上したことにより、経常損失は597,154千円（前年同四半期は経常損失1,005,164千円）となりました。さらに、特別損失として「投資有価証券評価損」395,473千円、「出資金清算損」219,120千円、「減損損失」91,611千円、オフィススリム化に伴う「固定資産除却損」12,055千円を計上しました。

なお、特別損失の計上理由として、「投資有価証券評価損」については、2020年6月まで当社の連結子会社であった株式会社トムスよりEnhance Experience, Inc.（以下、「Enhance社」）の普通株式を当社グループ持分を維持するためその保有する株式を2020年10月30日に取得し、今般譲渡を受けたEnhance社株式500,000株の評価について、当社で継続保有しているEnhance社株式1,500,000株の当初株式取得時の簿価での評価等を行った結果、損失として見込まれる金額を計上しました。さらに、「出資金清算損」については、「エヴァンゲリオンバトルフィールド」製作委員会を脱退したことにより出資金帳簿価額及び関連費用を計上し、「減損損失」については、開発中のスマートフォン向け新作ゲーム「幽☆遊☆白書 GENKAIバトル魂（スピリッツ）」日本版の新たな開発契約を締結したことに伴い、既開発を進めていたプログラム等ソフトウェア仮勘定計上資産の減損処理を行ったことにより計上をしました。

その結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は301,064千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失964,813千円）となりました。

（2）連結財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より2,319,915千円減少し、4,621,793千円となりました。これは主に、株式会社トムスを連結の範囲から除外した影響等により、現金及び預金が338,304千円、受取手形及び売掛金が427,276千円、商品及び製品が287,206千円、土地が511,000千円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より2,777,751千円減少し、3,478,384千円となりました。これは主に、株式会社トムスを連結の範囲から除外した影響等により、支払手形及び買掛金が711,666千円、短期借入金が553,830千円、1年内返済予定の長期借入金が291,810千円、長期借入金が1,120,392千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末より457,836千円増加し、1,143,408千円となりました。これは主に、資本金が2,124,155千円、資本剰余金が1,094,898千円減少し、利益剰余金が3,683,590千円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループはこれまで培ってきた「モバイルインターネット領域におけるサービス開発および運営ノウハウの提供、ブランド資源の価値最大化のプロデュース及び経営支援を行うことで、グローバルでの事業成長を実現し、日本のエンターテインメント業界を革新させ、さらなる発展に貢献する」ことを重要な戦略と位置付けています。

モバイルゲーム事業においては前事業年度に株式を取得し吸収合併したゲームゲートのビジネスモデルを中心に、ニ

ッチIPを使用したデジタルコンテンツのプロデュースを行っております。2020年12月期においては、新型コロナウイルス感染症の影響により予定していたアニメ化IPの放映遅延等が発生し、放映に合わせた売上増加施策の期ズレ等が発生している一方で、新経営陣による戦略外タイトルからの撤退、コスト構造改革の断行による固定販管費の削減等を行っております。また、キッチン雑貨事業においては、2020年12月期において既存店舗の見直し及びECによる販売強化、新たな形態での出店を想定しておりましたが、同じく新型コロナウイルス感染症の拡大により、主力の百貨店売上が大幅に減少したものの、Eコマース売上を中心としたその他の売上で百貨店売上の不足分をカバーしております。なお、モータースポーツ事業については、2020年6月に株式会社トムスの株式の80%を譲渡したことにより、同セグメントは当第3四半期連結会計期間から連結の範囲をはずれております。

コロナウイルス感染症の影響については引き続き予断を許さないものの、上記実績等を踏まえた2020年12月期の通期連結業績予想につきましては、売上高6,550百万円、営業損失600百万円を想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	988,246	649,941
受取手形及び売掛金	1,161,145	733,869
未収入金	33,223	515,125
商品及び製品	506,530	219,324
仕掛品	99,286	—
原材料及び貯蔵品	50,560	517
その他	345,667	370,930
貸倒引当金	△11	△19
流動資産合計	3,184,650	2,489,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	726,681	217,759
減価償却累計額	△373,744	△114,502
建物及び構築物(純額)	352,936	103,257
機械装置及び運搬具	701,962	—
減価償却累計額	△511,700	—
機械装置及び運搬具(純額)	190,262	—
工具、器具及び備品	413,253	113,656
減価償却累計額	△356,956	△90,220
工具、器具及び備品(純額)	56,297	23,436
土地	1,311,000	800,000
建設仮勘定	25,312	—
その他	67,284	6,930
減価償却累計額	△53,428	△1,759
その他(純額)	13,855	5,170
有形固定資産合計	1,949,664	931,863
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	94,811	—
のれん	855,060	719,224
その他	9,584	4,639
無形固定資産合計	959,456	723,863
投資その他の資産		
投資有価証券	304,844	257,230
その他	549,392	225,445
貸倒引当金	△6,300	△6,300
投資その他の資産合計	847,937	476,376
固定資産合計	3,757,058	2,132,103
資産合計	6,941,708	4,621,793

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	894,938	183,272
短期借入金	883,000	329,170
1年内償還予定の社債	110,400	81,400
1年内返済予定の長期借入金	533,794	241,984
未払金	987,920	803,004
未払法人税等	15,475	31,884
投資損失引当金	—	395,473
賞与引当金	2,104	12,437
その他	580,960	478,048
流動負債合計	4,008,593	2,556,674
固定負債		
社債	162,000	85,600
長期借入金	1,873,018	752,626
繰延税金負債	107,537	54,374
退職給付に係る負債	77,663	24,007
その他	27,323	5,102
固定負債合計	2,247,543	921,710
負債合計	6,256,136	3,478,384
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,023,436	899,280
資本剰余金	1,646,771	551,872
利益剰余金	△3,998,887	△315,296
株主資本合計	671,320	1,135,856
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	9
為替換算調整勘定	7,534	—
その他の包括利益累計額合計	7,534	9
新株予約権	2,885	3,719
非支配株主持分	3,832	3,823
純資産合計	685,572	1,143,408
負債純資産合計	6,941,708	4,621,793

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	4,451,553	5,200,555
売上原価	3,359,881	3,128,008
売上総利益	1,091,672	2,072,547
販売費及び一般管理費	2,000,249	2,577,334
営業損失(△)	△908,576	△504,786
営業外収益		
受取利息	1,036	198
受取配当金	756	2,098
受取保険金	1,140	—
受取賃貸料	—	5,400
その他	3,256	4,993
営業外収益合計	6,190	12,690
営業外費用		
支払利息	23,633	46,472
支払手数料	20,000	15,917
為替差損	14,807	6,366
株式交付費	4,201	1,706
持分法による投資損失	33,772	23,624
その他	6,364	10,971
営業外費用合計	102,778	105,058
経常損失(△)	△1,005,164	△597,154
特別利益		
子会社株式譲渡益	—	1,042,975
事業譲渡益	—	59,000
その他	3,888	9,496
特別利益合計	3,888	1,111,472
特別損失		
減損損失	—	91,611
固定資産除却損	0	12,055
店舗休業損失	—	22,938
投資有価証券評価損	—	395,473
出資金清算損	—	219,120
その他	—	929
特別損失合計	0	742,129
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,001,276	△227,811
法人税、住民税及び事業税	44,815	73,262
法人税等調整額	△79,947	—
法人税等合計	△35,131	73,262
四半期純損失(△)	△966,144	△301,073
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,330	△9
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△964,813	△301,064

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△966,144	△301,073
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△4,641	—
その他の包括利益合計	△4,656	9
四半期包括利益	△970,801	△301,064
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△969,470	△301,054
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,330	△9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

株主資本の著しい変動

該当事項は有りません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

株主資本の著しい変動

当社は、2020年3月24日開催の定時株主総会において、欠損の填補を目的とする無償減資について決議し、当該決議について、2020年4月30日を効力発生日として資本金2,523,436千円、資本準備金1,127,137千円を減少し、この減少額全額をその他資本剰余金に振り替えました。

また、資本金及び資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金4,017,615千円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補いたしました。

また、2020年3月25日に発行いたしました第32回新株予約権の権利行使に伴う新株式発行により、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ399,280千円増加しました。

これらにより、当第3四半期連結会計期間末において、資本金899,280千円、資本剰余金551,872千円、利益剰余金△315,296千円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲及び持分法適用の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であったEnhance Experience, Inc. は、重要性が低下したため、持分法の適用範囲から除外しております。

また、第2四半期連結会計期間において、当社が保有する株式会社トムス株式の80%を売却いたしました。これに伴い、株式会社トムスを連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。なお、四半期連結財務諸表作成にあたり、株式会社トムス株式のみなし売却日を2020年6月30日として、みなし売却日までの損益計算書を連結しております。

なお、当該連結の範囲の変更は、当四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えることは確実と認められ、連結貸借対照表における総資産の減少、連結損益計算書における売上高の減少及び特別利益の計上、連結キャッシュ・フロー計算書における営業活動によるキャッシュ・フロー等の増減が生じると考えられます。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	モバイルゲ ーム事業	モーターズ スポーツ事業	キッチン雑 貨事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,647,465	1,730,440	—	4,377,906	73,647	4,451,553	—	4,451,553
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	948	—	—	948	—	948	△948	—
計	2,648,413	1,730,440	—	4,378,854	73,647	4,452,501	△948	4,451,553
セグメント損失 (△)	△320,438	△224,588	—	△545,027	△39,787	△584,814	△323,762	△908,576

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ等の取得及び再生事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△323,762千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの追加)

当社は2019年9月27日に締結した投資契約により、株式会社ゆりの空間の株式を取得して子会社化をいたしました。また同社を連結子会社として連結範囲に含めたことにより、報告セグメントに「キッチン雑貨事業」を追加いたしました。

当該連結子会社については、みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末としたことから、当第3四半期連結累計期間は損益計算書を連結していないため、「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報」の各報告セグメントに係る記載はありません。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

上記の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通り、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントに「キッチン雑貨事業」を追加いたしました。

これに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、「キッチン雑貨事業」のセグメント資産が2,163,391千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社ゆりの空間を当第3四半期連結会計期間末に連結子会社としたことに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、「キッチン雑貨事業」のセグメントにおいて、のれんが418,739千円増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	モバイルゲ ーム事業	モーター スポーツ事業	キッチン雑 貨事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,226,449	1,083,764	1,881,681	5,191,896	8,659	5,200,555	—	5,200,555
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	—	—	175	175	—	175	△175	—
計	2,226,449	1,083,764	1,881,857	5,192,071	8,659	5,200,731	△175	5,200,555
セグメント損失 (△)	△37,061	△42,697	△15,573	△95,332	△56	△95,389	△409,397	△504,786

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ等の取得及び再生事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△409,397千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社トムの株式80%を売却し、連結の範囲から除外し、持分法適用関連会社としたことにより、「モータースポーツ事業」のセグメント資産は2,342,058千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「モバイルゲーム事業」セグメントにおいて、固定資産に係る減損損失91,611千円を計上しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当社グループにおいては、2020年4月7日に政府から発令された緊急事態宣言を受け、店舗・拠点の営業を臨時休業（一部店舗は部分休業及び営業時間の短縮）しておりましたが、5月中旬以降、緊急事態宣言が解除された地域から段階的に営業を再開いたしました。当該臨時休業の影響により、当第3四半期連結累計期間においては、売上高の大幅な減少等の影響が生じております。

新型コロナウイルス感染症の影響については今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、当社グループは入手できる情報を踏まえて翌連結会計年度にかけて業績は回復していくものと仮定して、固定資産の減損等の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルスによる経済活動への影響は不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(グループ内株式取得による評価損失の発生)

当社は、2020年6月まで当社の連結子会社であった株式会社トムスより、Enhance Experience, Inc.（以下、「Enhance社」）の普通株式を当社グループ持分を維持するためその保有する株式を2020年10月30日に取得いたしました。今般譲渡を受けたEnhance社株式500,000株の評価については、当社で継続保有しているEnhance社株式1,500,000株の当初株式取得時の簿価での評価等を行った結果、損失として見込まれる395,473千円を投資損失引当金として四半期連結貸借対照表の流動負債に、投資有価証券評価損として四半期連結損益計算書の特別損失にそれぞれ計上しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

継続企業の前提に関する重要事象等を解消するための対応策等

当社グループは2015年12月期より、5期連続して営業損失を計上し、当第3四半期連結累計期間におきましても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。その要因は、モバイルゲーム事業における今後の戦略見直しに伴う事業コストの削減は進んできたものの、株式会社ゆとりの空間が営むキッチン雑貨事業において新型コロナウイルス感染症の影響等により営業損失を計上したことによります。

このことから、当社グループは、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。しかしながら、その対策として、モバイルゲーム事業につきましては、2020年1月に当社の連結子会社である株式会社モブキャストゲームスが株式会社ゲームゲート（以下、「ゲームゲート」）を吸収合併して、ゲームゲートが得意とするニッチIPのコンテンツプロデュースに戦略を寄せ、ローリスクミドルリターンモデルへと転換し、モバイルゲーム事業の中で今後の戦略より外れていたスポーツタイトルの一部を子会社として設立した株式会社モブキャストプラスへ承継し、その全株式を2020年3月31日をもって株式会社オルトプラスへ売却し、人件費、その他費用を抑制し、コストの見直しを進めました。さらに、2020年4月2日より配信されておりました「エヴァンゲリオン バトルフィールド」の収益があがらず、運営費用の追加負担の発生が懸念されていたことから同ゲームタイトルの製作委員会から2020年9月30日をもって脱退し、追加の費用負担の発生と損失の拡大を防ぐ等の対応をしております。また、キッチン雑貨事業におきましても、一時的な新型コロナウイルス感染症による売上高減少はあったものの、店舗営業再開後は一定率での業績が回復しつつあり、EC事業においては売上が急増しており、他の出版事業等においても影響なく推移し、百貨店売上の減少をカバーしております。さらに、モータースポーツ事業を営む株式会社トムスの更なる成長と、当社の資本効率を高めることを目的として、当社が保有する同社株式の80%を譲渡したことに加え、2020年3月25日に株式会社SBI証券に対して発行した新株予約権の行使が同月より開始されていることから、財務基盤は一定の安定化が図られております。

これらの結果、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。